

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

326
183

滋賀縣ノ林業

始



滋賀縣ノ林業

326-183



滋賀縣ノ林業

目次

第一章	林野ノ分布	一
第二章	地質及林況	二
第三章	林業ノ沿革	五
第一節	維新前ノ林業	五
第二節	維新後ノ林業	六
第四章	林産物及樹苗	八
第一節	木材	八
第二節	薪炭材	九
第三節	竹材	九
第四節	各種ノ副産物	九

大正
5. 11. 30
内交

第五節 樹 苗 一〇

第五章 縣ノ施設經營 一

第一節 一般林業ニ關スルモノ 一

一 縣營苗圃事業 一
 二 特別樹苗圃事業 一
 三 植樹獎勵事業 一
 四 模範林事業 一
 五 縣學林事業 一
 六 縣有林造成事業 一
 七 公有林野ノ整理 一
 (1) 部落有林野ノ統一 一
 (2) 入會關係ノ整理 一
 (3) 公有林野ノ施業案編成 一
 八 公有林野造林補助事業 一
 九 社寺有林野ノ整理 一
 十 學校林ノ設置獎勵 一
 十一 林業ニ關スル各種組合ノ獎勵 一
 十二 竹林ノ改良増殖 一

十三 林業ニ關スル副業ノ獎勵 二九

- (1) 木炭改良 三〇
- (2) 椎 蕈栽培 三一
- (3) 山 葵栽培 三一
- (4) 松根油製造 三一

十四 林業功勞者ノ表彰 三二

十五 林業講習講話 三三

第二節 治水及國土保安ニ關スルモノ 三四

- 一 保安林 三四
- 二 森林開墾制限禁止 三六
- 三 荒廢地復舊補助事業 三七
- 四 治水關係地標柱建設 三八
- 五 火入ノ取締 三九

第六章 郡市ノ施設經營 四一



第六章

本市ノ森林經營

一	市有林	三〇
二	市有林	三六
三	市有林	三六
四	市有林	三六
五	市有林	三六
六	市有林	三六
七	市有林	三六
八	市有林	三六
九	市有林	三六
十	市有林	三六
十一	市有林	三六
十二	市有林	三六
十三	市有林	三六
十四	市有林	三六
十五	市有林	三六
十六	市有林	三六
十七	市有林	三六
十八	市有林	三六
十九	市有林	三六
二十	市有林	三六
二十一	市有林	三六
二十二	市有林	三六
二十三	市有林	三六
二十四	市有林	三六
二十五	市有林	三六
二十六	市有林	三六
二十七	市有林	三六
二十八	市有林	三六
二十九	市有林	三六
三十	市有林	三六

滋賀縣ノ林業

第一章 林野ノ分布

本縣ニ於ケル土地總面積三十四萬九千餘町步ノ内林野ニ屬スルモノハ十六萬九百餘町步（推定面積二十萬四千餘町步）ニシテ推定面積ニ依ルトキハ實ニ總面積ノ六割四分ヲ占ム而シテ各所有別ノ推定面積ハ未調査ニ屬スルヲ以テ之ヲ細別スルコト能ハサルモ其公簿面積ヲ掲記スレバ左ノ如シ

所有別	森林面積	原野面積	計
國有	六九一九一	四一七	六九一九一
縣有	六九六六	一五五二	六九六六
郡有	一五三三五	一七五	一五六五二
市有	六八四三	二七五	六三二八
町有	四九一四六七	二〇七一	五二一七三
村有	五七五五一	二一九六三	五九七四七
其他團體	五七七七二	二四九〇	六〇四六二
社寺	八五四二九六	二八四〇二	八八二六九八
私計	一五五六九七〇	五二八五五	一六〇、九八二五

以上林野面積ヲ郡市別ニ示セバ左ノ如シ

郡市名	國有	公有	社寺	私有	計	原野	合計
大津	1,032.5	4,332.9	8.4	22.8	1,253.7	38.3	1,292.0
滋賀	2,947.7	1,541.8	177.5	630.8	1,270.6	38.3	1,308.9
栗太	2,011.2	2,949.9	323.9	5,848.2	9,713.1	65.4	9,778.5
野洲	442.9	1,163.3	143.0	4,946.6	1,375.4	178.4	1,553.8
甲賀	1,095.2	1,124.1	353.3	1,528.4	2,789.4	347.0	3,136.4
蒲生	1,001.7	5,241.7	357.7	7,939.8	4,540.9	392.3	4,933.2
神崎	1,092.2	5,306.6	208.4	3,006.5	3,854.7	107.9	3,962.6
愛知	477.3	2,144.9	1,048.3	8,090.4	1,243.6	250.3	1,493.9
犬上	477.3	3,692.9	261.0	7,094.8	1,526.0	64.2	1,590.2
阪上	388.9	3,889.9	54.8	7,054.8	1,146.5	149.1	1,295.6
伊井田	346.6	9,551.5	143.8	2,705.9	12,407.8	205.1	12,612.9
伊香島	234.6	3,890.9	474.9	9,455.3	14,045.7	143.7	14,189.4
高島	234.6	3,890.9	474.9	9,455.3	14,045.7	143.7	14,189.4
計	6,919.1	57,551.2	5,772.2	85,429.6	155,697.0	5,285.5	160,982.5

第二章 地質及林況

本縣ニ分布セル岩石ハ水成岩並火成岩ノ二類トシ更ニ發生時代ノ新舊ニ依リ細別スレバ左ノ如シ

- 一、水成岩類
 - 1、秩父古生層 附石灰岩
 - 2、侏羅紀層
 - 3、第三紀層
 - 4、第四紀古層
 - 5、第四紀新層
- 二、火成岩類
 - 1、花崗岩
 - 2、石英斑岩
 - 3、閃綠岩

秩父古生層ハ本縣南部ヲ除ク外四圍ノ連峯ヲ構成シテ其分布最廣ク林野面積ノ過半ヲ占ム而シテ同地層ノ東北及東部ニハ石灰岩ノ帶狀露出アリ侏羅紀層ハ東北美濃ノ國境ニ花崗岩、石英斑岩及第三紀層ハ主トシテ南部及東南部地方ニ、閃綠岩ハ縣ノ最北端ノ小區域ニ現ハル秩父古生層又ハ花崗岩地方ノ山麓並第三紀層ニ介在シテ分布セルモノハ第四紀古層ニシテ湖邊ニ至リ耕地ノ大部分ヲ成セルモノハ第四紀新層ナリトス

本縣ノ森林ハ森林植物帶上所謂暖帶林ニ屬スルモ四圍國境及其附近ノ山脈ノ中腹以上ニ於テ温帶林ノ現存スルヲ見ル湖南ノ花崗岩地方ニハ荒廢セル林野少カラズト雖累年砂防工事ノ施行ト共ニ山楨繁茂シテ地力ヲ復舊シ赤松林ノ分布モ亦カラズ湖東及湖西ノ國境ニ近キ地域及湖北一帶ノ秩父古生層地方ハ落葉闊葉樹林ノ生育頗ル旺盛ナリ而シテ杉扁柏林ハ全縣下ニ亘リテ適潤地ニ造成セラレツ、アリト雖東部西部及東南部地方ニ特ニ著シキ發達ヲナセリ今縣下ニ於ケル主要林木ヲ擧クレバ左ノ如シ

針葉樹類

すぎ、ひのき、あかまつ、くろまつ、もみ、あすなろ、いぬがや等

常緑潤葉樹類

あかかし、あらかし、しらかし、うらじろがし、ひひ、やぶにつけい、つばき、さかき、そよご等

落葉潤葉樹類

こなら、おほなら、くぬぎ、あへまき、くり、しで、かしは、けやき、さくら、みづめさくら、うりはだかへで、いたやかへで、ごろのき、やまならし、いものき、ほのき、とちのき、かつら、こぶし、ぬるで、くるみ、はんのき、えのき、ぶな、いぬぶな、はりざり、しなのき、りようぶ、とねりこ等

竹類

まだけ、はちく、まうさうちく、めだけ、すだけ等

更ニ林種別推定面積ヲ表示スレハ左ノ如シ

林種	推定面積	備考
針葉樹林	三〇、九三三	竹林面積ヲ除キタル立木地面積二〇六、五五四町歩ノ百分ノ十五
針葉樹林	五、三九九	同上ノ百分ノ二十五
針葉樹林	八、二六三	
針葉樹林	一〇、三三八	同上ノ百分ノ五

潤葉樹林	面積	備考
潤葉樹林	二二、六〇五	同上ノ百分ノ五十五
竹立木地	一、三六二	
無立木地	六、六三三	
禿禿崩壊地	九、八八二	内砂防施工済面積 三、七〇八町歩 將來要施工地面積 六、一七四町歩
計	三三、四三三	

第三章 林業ノ沿革

第一節 維新前ノ林業

上古ニ於ケル本縣ノ森林ハ史冊ノ微スヘキモノナシト雖奈良朝以降ニ在リテハ其一斑ヲ窺フニ足ルモノアリ以下之ヲ概説スヘシ

奈良朝時代ニ在リテハ栗太郡田上地方ヨリ大材ヲ伐出シテ瀬田川即宇治川ヲ下シ以テ皇居及寺院造營ノ用ニ供シタル事蹟アリ當時佛教ノ隆盛ニ伴ヒ堂塔伽藍ノ大建築諸方ニ起リ縣下ニ於テモ高山峻峯ニ其遺跡極メテ多ク是等ノ造營材ハ水運ノ便ニ富メル本縣ノ森林ニ依リテ供給セラレシコト少カラザルベク又以テ當時ノ森林美ヲ想見スルニ難カラス降リテ延暦年間勅願ニ依リテ建立セラレタル延暦寺ノ造營材ハ傳教大師自ラ飛錫巡檢シ甲賀郡南杣地方ニ於テ得タルモノナリト云ヒ又嵯峨天皇ノ弘仁年間ニハ比良山

ヲ禁伐林トナシ以テ官用備林トナシタリト傳フ現今森林ノ荒廢セル南杣地方若クハ比良ノ暮雪ヲ以テ著名ナル比良山ノ如キモ往時一大美林タリシヲ察スルニ足ルト雖當時近畿地方ニ於テハ既ニ用材ノ潤澤ナラザルニ至リシコト明ナリ爾後足利氏ノ末世ニ至ル迄近江一帶ノ諸山ハ鬱鬱トシテ風光ノ美ヲ添ヘタリシガ元龜天正年間ニ及ビ戰雲四方ヲ罩ムルヤ近江ノ地ハ兵馬倥傯ノ巷トナリ森林保護ノ如キハ毫モ顧ミラレズ剩ヘ織田氏ノ佛閣ヲ燒燬スルニ際シ附近ノ森林ハ何レモ寺院ト共ニ兵燹ノ害ヲ被リ茲ニ森林荒廢ノ端ヲ開クニ至レリ其後徳川氏藩政ヲ布キテヨリ百般ノ制度茲ニ革リ殖産ノ事業モ亦其緒ニ就キタリト雖近江八十五萬石ノ地ハ京都ニ近接セルガ故ニ幕府ノ直領諸侯ノ封地公卿ノ食邑旗士ノ采地社寺領等ニ分割セラレテ領主ノ數、百四十ノ多キニ達シ彦根藩ヲ除クノ外ハ各領地ノ境界犬牙錯綜甚シキニ至リテハ一部落ニシテ二三ノ領主ヲ戴クモノアリ爲メニ法令區々ニシテ多クハ目前ノ收斂ヲ事トシ永遠ノ企劃ヲ樹テ、産業ノ啓發ニ勗ムルモノ稀ナリシヲ以テ林政ノ整備セルモノ少ク加之由來本縣ハ地味膏腴ニシテ米穀ノ產出ニ富ミ且夙ニ商業盛ナリシヲ以テ一般ニ生計ノ基礎ハ農商ニ存シ森林ニ依頼スルノ傾向少ナク從ツテ愛林ノ念ヲ薄カラシメタルヲ以テ造林保護ノ途全ク發達セザリシナリ

第二節 維新後ノ林業

明治ノ初年舊慣古法ハ玉石共ニ廢絶シ且木材ノ價格暴騰セシカ故ニ森林ノ濫伐盛ニ行ハレ植伐全ク平衡

ヲ失ヒ益々森林ヲ荒廢セシメタラ殊ニ縣下ノ東南部地方ハ其基岩ガ脆弱ナル花崗岩若クハ石英斑岩ニ依リテ構成セラル、ヲ以テ濫伐ノ結果荒廢甚シク一望蜿蜒タル禿瘠地ハ漸次其區域ヲ擴大シ降雨毎ニ土砂ヲ流下シテ河底ヲ高メ洪水頻リニ臻リテ明治二十九年ノ交ニハ一ケ年平均ノ直接水害額百數拾萬圓ノ巨額ニ達セシコトアリ是ヨリ先政府ハ淀川ノ改修工事ト共ニ是等ノ荒廢林野ニ砂防工施設ノ必要ヲ認メ明治六年以來瀬田川流域ニ於テ施工ニ着手シ縣モ亦治水事業並一般林業ノ獎勵ニ力ヲ致シ明治十六年度ヨリ野洲川家棟川日野川ノ三流域ニ於テ砂防工事ヲ創始セリ後施工區域ヲ草津川犬上川ノ流域ニ及ボシ更ニ全縣下ニ亘リテ施工スルニ至レリ明治三十一年砂防法ノ實施セラル、ニ及ビ本事業ハ其基礎強固トナリ年々施工面積ヲ増大セリ又一面ニハ造林獎勵及森林保護ノ一日モ忽諸ニ附スベカラザルヲ認メ明治十五年ノ頃樹苗圃ヲ設ケテ樹苗養成ノ模範ニ供シ兼ネテ供給ノ途ヲ開キ同十九年ニハ民林取締規則ヲ定メテ森林ノ保護ニ勗メ次イデ植樹獎勵金下付規則ヲ發布シテ斯業ノ發達ヲ圖リタリト雖未ダ其效果ノ顯著ナルニ至ラズ特ニ公有林野ニ在リテハ依然舊慣ヲ脱セズ徒ニ柴草ノ採取ヲ事トシ其開發ヲ企ツルモノ稀ニシテ其原因主トシテ樹苗ノ供給ニ缺クル所アルヲ察シ明治三十三年以降縣ヨリ補助ヲ與ヘ縣農會ヲシテ樹苗圃ヲ經營セシメタリシガ尙需給相伴ハザルヲ以テ更ニ明治三十五年度以降繼續事業トシテ樹苗ノ無償交付、植樹獎勵金ノ交付ヲ行ヒ最荒廢セル公有林野ノ開發ヲ圖リ其他第五節ニ詳說セントスル各種ノ施設經營ニ勗メタル結果大ニ斯業ノ面目ヲ一新シテ著々舊時ノ林相ヲ挽回スルニ至レリ

第四章 林産物及樹苗

第一節 木材

木材ノ主要ナルモノハ杉、扁柏、赤松ノ丸太材角材挽材及杉ノ酒桶用材等ニシテ一ケ年ノ産額ハ丸太材及角材ハ約十五萬尺、板材約十五萬坪酒桶用材約五萬挺此價額總計約九拾萬圓ニシテ森林面積ニ比シ多シト云フヲ得ズト雖年々其産額ヲ増加シ來ルノ趨勢ナリ

是等用材ノ伐期ハ地方ニヨリ一定セズト雖通常杉ハ五十年（酒桶用材ヲ製スルモノハ八十年）扁柏ハ六十七年赤松及黒松ハ三十年ナリ

運材事業ノ巧拙ハ材價ニ至大ノ影響ヲ與フルモノニシテ縣下ニ於ケル運材方法ハ陸運トシテハ平落、曳出、車出、木馬出等ヲ用ヒ水運トシテハ管流筏流ヲ行フ高島郡安曇川及伊香郡高時川、甲賀郡野洲川等ニ於テハ水運法發達セルモ其他ノ諸川ハ現今ニ於テハ僅ニ其一小部分ヲ利用スルニ止ルノミ從來木材ハ多ク粗造材ノ儘ニテ需要地ニ運搬セラレシガ近來林地又ハ縣内需要地ニ鋸器械ヲ据付ケ水力又ハ蒸汽力ヲ以テ製材ニ從事スルモノアルニ至レリ而シテ是等製材事業ノ大部分ハ製板業ナリトス

第二節 薪炭材

薪炭材ノ一ケ年ノ産額ハ最近十ケ年平均二十七萬六千餘圓此價格五十四萬九千餘圓ニシテ其伐期ハ約二十年ナリ樺ノ薪材ハ主トシテ北方ノ湖岸地方ヨリ産出シ水運ノ便ニ依リテ大津京都方面ニ搬出ス

第三節 竹材

竹材ノ一ケ年ノ産額ハ最近十ケ年平均七萬四千餘圓東此價格四萬六千圓ナリ本縣ニ於テ最著シキ用途ハ河川用材扇骨原料舩用材等ニシテ殊ニ扇骨原料ハ高島郡ニ於ケル河川ノ堤塘ニ天生セルモノ極メテ良質ニシテ高島扇骨ノ名世ニ知ラレ其年産額五萬圓ニ達ス又栗太郡草津町ヨリハ竹根鞭ヲ産シ海外ニモ輸出シテ其年産額貳萬圓ニ及ビ蒲生郡市邊村ニハ竹製品ヲ犬上郡高宮町ニハ箆ヲ産ス

第四節 各種ノ副産物

林地住民ノ副業トシテ製出セラレ又ハ採取セラル、モノ、内年産額壹千圓以上ノモノヲ大正四年ノ統計表ニヨリテ調査スルニ左表ノ如シ

種別	數量	價格	種別	數量	價格
木炭	三、四、五〇、五七	二、八、四、七	下駄	三、六、三	二、三、九
柴草	六、九、六、四、〇、九	一、〇、六、六	經木	一、〇、六、〇、〇	一、〇、六、四、〇
土類		一、三、六、五、五	諸菌	三、四、八、〇、三	九、九、八、四
石類		九、五、八、九、七	屋板	九、四、六、六	八、一、二
松皮	八、六、七、八、八、五	八、九、〇、六	芝草	一、三、三、五、七	五、八、一、四
樹實		六、〇、一、三、三	濕草	八、五、八、八	三、八、三、六
落葉		三、四、一、八、〇	花類	八、五、八、八	五、八、一、四
自然生蔬菜		二、三、三、六、四	藥草	一、三、八、五、〇	一、五、〇
		一、四、七、八、九	折箱用材	一、三、八、五、〇	一、三、八、五
				一、八、三	一、〇、三

以上ノ外松根油、植物性油脂類、木タール、醋酸石灰、洋傘柄、及ステッキ材料、絲卷及紡績用木管、木地細工、棕櫚ノ皮及葉、染料用樹皮木毛等其産額ハ未ダ著シカラズト雖一般製造工業ノ發達ニ伴ヒ漸次増加セントスルノ傾ヲ呈セリ

第五節 樹苗

縣下ニ於ケル造林樹種ノ主ナルモノハ杉、扁柏、赤松、黒松、櫟、樺、山楡等ニシテ他府縣ヨリ移入セラル、モノアリト雖是等ノ樹苗ヲ養成スベキ苗圃ノ面積ハ百町歩以上ニ達シ一ケ年ノ産額ハ山行苗三千

萬本以上ニ及ブ而シテ山楡苗最多數ヲ占メテ千五百萬本杉扁柏ハ之ニ次ギ千三百萬本赤松及黒松ハ百四十萬本ニシテ其他ノ樹種ハ百萬本内外ナリトス

山楡苗ハ本縣ノ特産ニシテ明治ノ初年愛知郡秦川村ノ人該樹ノ砂防造林ニ適當ナルヲ發見シ後甲賀郡岩根村ノ人之ガ栽培法ヲ研究シテ遂ニ同地方ニ於ケル主要物産トナリ現今ニ於テハ廣ク他府縣並朝鮮等ニ供給スルニ至レリ然ルニ近年産額ノ増加ニ伴ヒ諸種ノ弊害ヲ生シ樹苗ノ聲價ヲ失墜センコトヲ恐レ之ヲ村農會ノ事業ニ移シ良苗ノ産出販路ノ擴張ヲ圖リツ、アリ甲賀郡岩根村農會及石部町農會野洲郡三上村農會ノ如キ是ナリ

山楡以外ノ樹苗ハ民間ニ於テハ主トシテ自家用ノモノヲ産シ、販賣ノ目的ヲ以テ生産スルモノ多カラズ杉扁柏ノ如キハ寧ロ供給不足ニシテ其價格不廉ナルヲ免レズ從ツテ縣外ヨリ移入スルモノ多シ今後益々樹苗ノ産出ヲ豊富ナラシムルヲ要ス

第五章 縣ノ施設經營

第一節 一般林業ニ關スルモノ

一、縣營苗圃事業

本事業ハ明治三十五年度ヨリ大正五年度ニ至ル十五ケ年ノ繼續事業ニシテ縣費總額拾七萬八千五百五拾七圓余ヲ支出シテ杉、扁柏、山欐其他造林用樹種ノ苗圃ヲ經營シ年々主トシテ公有林社寺有林並保安林等ノ造林者ニ樹苗ノ無償交付ヲ爲シ本縣造林事業ノ發達ヲ促スノ目的ナリトス

コノ目的ヲ遂行センガ爲メニ便宜上管内ヲ四個ノ林區ニ別チ各林區ニ苗圃ヲ設置シテ技手及助手ヲ常置シ專ラ樹苗ノ養成ニ從事セシム現在直營苗圃九ヶ所總面積七町三反四畝十四歩ニシテ尙此他ニ囑托苗圃數十箇所ヲ設置シ毎年數百萬本ノ樹苗ヲ產出交付シテ造林ノ發達ニ多大ノ効果ヲ與ヘツ、アリ本事業開始後大正四年度迄ニ交付セシ樹苗ハ實ニ四千三百三十八萬一千三百四十九本ノ多數ニ達シタリ各年度ノ樹苗交付數ハ左表ノ如シ

交付樹苗各年別樹種別表

年 度	松	杉	扁 柏	櫟	山 欐	其 他	計
三十六年度	一、〇〇〇	七、五二、二七	二、三〇〇	一、〇〇〇	二、三〇六、四〇	—	一、二三八、九〇七
三十七年度	二八〇,〇〇〇	五、八八一、六七	二四二,五五	四二,三七四	七四四,九四〇	—	一、八九八,〇二六
三十八年度	三〇一,九〇〇	一、四三三,九六〇	一一一,〇一〇	一〇,〇〇〇	五四八,六五〇	—	二,四〇五,五二〇
三十九年度	二五〇,〇四八	九、九八、七〇〇	六三三,三三〇	二六,二二〇	五五一,六六〇	—	二,四五〇,三三〇
四十年 度	二三三,一四四	一、二七九,四五六	六七四,四〇二	二七,九六九	三三八,〇七七	—	二,五二一,〇四七

四十一年 度	二八三,九七五	一、五七四,七三〇	三、七四〇,四〇〇	九,〇〇〇	一、〇二九,一九〇	—	三,二七〇,九三五
四十二年 度	二七二,五〇〇	一、二〇七,九八〇	四、八五〇,八八〇	二三,三九〇	一、四五五,四二〇	—	三,四四二,三七〇
四十三年 度	三六八,〇一一	一、五九五,七八九	九、六五一、七六	一八,五六〇	一一八,四四九	—	四、一六五,九八五
四十四年 度	三、七七八〇〇	一、九九二,〇二〇	九、八八五,〇〇〇	三五,九〇〇	八〇一,二〇〇	—	四、一六五,四二〇
四十五年 度	二、三三〇,〇〇〇	一、七四二,三三〇	一、四八八,八七〇	八、九〇〇	一、〇四七,二〇〇	—	四、五八二,三〇〇
大正二 年度	二、九九九〇〇	一、七六九,四四四	一、一四七,〇五〇	六、七,〇〇〇	一、四五七,〇〇〇	—	四、六八〇,三九四
大正三 年度	三、三三六,〇〇〇	一、二六二,七八〇	一、〇四二,〇七六	五、六,三〇〇	一、四四〇,二九九	—	四、一五四,八五〇
大正四 年度	四、〇一九四五	九、三三、三四二	一、二七四,五四六	一、九、三六五	一、九七五,九〇〇	—	四、八六四,二二五
合 計	三、五三四、二五五	一、六八〇、五八五	九、四九九、六六四	五、四、〇六八	二、一八三、八、四六五	—	三、三九〇、七二

二、特別樹苗圃事業

櫻、榛、樟、栗、櫟等ノ樹種ハ特種ノ用途ヲ有シ國家ニ須要ナルモノナルニ係ラス漸次缺乏ノ趨勢ナルヲ以テ政府ニ於テハ此等樹種ノ繁殖ヲ計畫シ明治四十年度ヨリ植樹獎勵費ヲ配賦セラレタルヲ以テ本縣ニ於テモ同年度ヨリ毎年種苗ノ無代交付ヲ爲シテ植樹セシメツ、アリシガ本事業ハ大正二年度限國費ノ配賦ヲ廢セラレタリ從テ該事業ハ一時中止ノ已ムヲ得ザルニ至リシト雖、樟ノ如キハ特ニ本縣ニ植樹ノ必要アルヲ以テ縣營苗圃ニ於テ養成シ無償交付ヲ爲シツ、アリ本事業開始後大正二年度迄ニ交付シタル種苗ハ種子三升樹苗六十三萬九千九百四十五本ニシテ其種苗別ハ左表ノ如シ

特別須要樹種交付數

年 度	總 計	榉	樟	厚朴	栗	楮	櫨	其他ノモノ
明治四十年度	九七九〇四	五〇〇〇	—	—	—	—	—	—
同 四十一年度	一四四七四六	四二〇〇	—	—	—	—	—	—
同 四十二年度	一〇四五一七	四〇五〇	—	—	—	—	—	—
同 四十三年度	三七〇七五	—	—	—	—	—	—	—
同 四十四年度	八八五八三	—	—	—	—	—	—	—
同 四十五年度	六二一八二	—	—	—	—	—	—	—
大正元年度	二五二九四	—	—	—	—	—	—	—
大正二年度	五五九四〇	—	—	—	—	—	—	—
合 計	五五九四〇	一三二五〇	一八三三四	四四三七	三二二七七	二二二五	八六七〇	二三五二

三、植樹獎勵事業

本事業ハ縣設苗圃事業ト相俟テ本縣林業ノ發達ヲ促スノ目的ヲ以テ設定シタル獎勵方法ノ重要ナルモノニシテ明治三十六年度ヨリ大正五年度迄十四ケ年ノ繼續事業トシ縣費總額拾七萬六千四百參拾壹圓餘ヲ各年度ニ支出シテ一般造林者ニ對シ現金補助ヲ爲スモノトス

本事業計畫ノ當時ニ於テハ縣下ニ於ケル一ケ年ノ造林總面積ハ僅ニ三百餘町步ナリシガ今日ニ於テハ每年二千町步以上ニ進ミ一般ニ造林思想ノ發達セシコト著シク極メテ順調ニ進歩シツ、アルノ狀況ナリトス本事業開始以來大正四年度迄ニ獎勵金ヲ交付セシ額ハ實ニ拾參萬四千五百參拾六圓參拾八錢壹厘ニシ

テ其造林總面積ハ一萬四千六百三十一町九反三畝二十一步ニ達セリ之ヲ年別ニ掲記スレバ左表ノ如シ

各年別植樹獎勵金交付額並造林面積表

年 度	獎勵金交付額	造林面積
明治三十六年度	四八三〇九一五	三五七三五〇二
同 三十七年度	一一五七七七七	九二四九九〇四
同 三十八年度	一一四三〇九一〇	一一〇〇五〇六
同 三十九年度	九二七二二三八	一一四一四六二七
同 四十年度	一〇六四四七一	一〇九五八八〇〇
同 四十一年度	一〇〇〇〇一一〇	一一四一四五一一
同 四十二年度	一〇二七六九五〇	一一一九五〇二三
同 四十三年度	一〇五七七五七〇	八一九六六一七
同 四十四年度	一〇七二五五五〇	一一四八二二五
同 四十五年度	一一三九二七二〇	一三三六三七一〇
大正元年度	一一一〇四〇〇〇	一五二九七二一〇
同 二年度	一一三〇八四〇〇	一五九七六五二三
同 三年度	一〇三九〇〇〇〇	一一八九二八二三
同 四年度	一三〇五三六八一	一四六三一九三二
合 計	一三〇五三六八一	一四六三一九三二

明治四十三年度ヨリハ特ニ國庫ヨリ補助金ヲ交付シテ町村及町村組合ノ造林ヲ獎勵セラル、ノ結

果其植樹ニ對シテハ縣費植樹獎勵金ヲ交付セサルニ依リ同年度以後町村林及町村組合林ノ造林面積ハ本表ニ計上セズ

四、模範林事業

本事業ハ神崎郡ノ富豪塚本家ノ寄附ガ動機ト爲リ縣下適宜ノ地ニ小規模ノ模範的造林ヲ爲シ之ガ經營方法及林利ヲ一般ニ示スノ目的ヲ以テ計劃シ明治三十八年度ヨリ大正三年度迄ノ繼續豫算總額八千百參圓餘ノ内其ノ三分ノ一ハ寄附金其他ハ縣費ヲ以テ第一模範林ヲ滋賀郡木戸村ニ於テ十六町四反六畝廿一步第二模範林ヲ伊香郡片岡村ニ於テ三十町四反五畝廿二步合計四拾六町九反二畝十三步ヲ選定シ去ル明治三十九年ヨリ植樹ニ着手シテ同四十二年ニ於テ全部植栽ヲ終了シ爾後年々手入ヲ施シテ大正三年度ニ至リ全ク造林事業ヲ完了セリ而シテ植栽後ノ成績ハ概シテ良好ニシテ或ル部分ハ既ニ枝打ヲ施行スルニ至レリ

本模範林ノ植栽樹種面積數量並經費ハ左表ノ如シ

名稱	位置	全面積	植栽		經費	備考
			樹種	面積		
第一模範林	滋賀郡木戸村	一六四六二	杉	四〇〇〇〇	二、四〇〇	明治三十九年植栽ニ着手シ同四十年全部植栽ヲ了ス
	大字木戸字後山一、六六九番		柏	二、四〇〇		
計				二、四〇〇		

第二模範林	伊香郡片岡村 大字小谷家太 田谷七〇二番	全面積	植栽		經費	備考
			樹種	面積		
計		三〇、四三三	杉	六八八〇六	二、五九五〇	明治四十年植栽ニ着手同四十一年全部植栽ヲ了ス
			柏	二、六七〇		
				九〇、〇三〇		
				二八、五〇六		
				一一、五九〇		
		四六、九二三		二二、三五六〇		八一〇、三五六八

五、縣學林事業

縣學林事業ハ縣立各學校ノ基本財産利殖ノ方法トシテ經營シ兼テ縣下林業ノ發達ニ資セントスルモノニシテ第一期計劃トシテ明治三十九年度ヨリ大正十二年度迄十八ヶ年ノ繼續事業トシ豫算總額九萬四千八百六拾圓餘ヲ以テ杉扁柏ヲ主トセル總面積六百五十町歩ノ造林計劃ヲ定メ林地ヲ二箇所ニ選定シ目下着々實行中ニアリ第一學林地ハ高島郡朽木村ニ設置セラレ面積二百十六町三反十一歩第二學林地ハ東淺井郡東草野村ニ設置セラレ面積四百三十三町五反歩ナリ

植栽ニ要スル樹苗ハ各學林地附近ニ附屬苗圃ヲ設置シテ之ヲ養成シ樹苗ノ供給ヲ爲セリ目下苗圃總面積ハ三町八反四畝十二歩ナリトス
植栽ニ着手シタルハ明治四十二年ニシテ第一學林ハ大正元年秋季迄ニ全部ノ植栽ヲ完了シ第二學林ハ大正四年度迄ニ三百六十五町二反一畝歩ヲ植栽シ既植面積合計五百八十一町五反一畝十一歩ニ達シ目下豫定ノ如ク事業進行中ニシテ大正五年度ニ於テ全部ノ植栽ヲ完了スベキ豫定ナリ

本事業ニ關スル實行成績ノ大要ハ左表ノ如シ

名稱	位 置	全面積	植 栽			經 費	摘 要
			樹苗面積	苗木數	經 費		
第一學林	高島郡朽木村 大字宮前坊字 入部谷一八〇 番外一筆	二二六三〇・二	杉	二五二五〇〇	四九、五〇	二二、二四八・四	四十二年秋期植栽ヲ着手シ大正元年秋季植栽終了ス
			扁柏	八九六五〇〇	二七六、五五		
第二學林	東淺井郡東草 野村大字吉槻 字井ノ口一、 九五九番外五 十六筆	四三、五〇〇	計	〇六〇〇〇	二、一〇〇	四三、〇〇一	四十四年秋期植栽ニ着手シ大正五年度ニ於テ植栽ヲ終了スベキ豫テナリ
			杉	〇八〇一一	二、三三五		
計		六四九八〇・二	計	二六三、〇一一	七〇、五〇〇	二六、七九七・五七〇	

備考

第一學林ノ土地所有者ハ高島郡朽木村大字宮前坊ニシテ明治四十二年十一月地上權ヲ設定ス
 第二學林ノ土地所有者ハ東淺井郡東草野村大字吉槻及同村大字上板並、下板並共有ニ屬シ明治四十二年十二月地上權ヲ設定ス

六、縣有林造成事業

曠古ノ御大典ヲ記念シ兼テ水源ノ涵養ヲナサシムガ爲メニ計畫シタル事業ニシテ大正五年度ヨリ同廿六年度迄二十二ケ年ノ繼續事業トシ豫算總額貳拾七萬八百參拾壹圓（本經費中ニハ神崎郡ノ富豪塚本家ノ寄附金五萬圓ヲ含ム）ヲ各年度ニ支出シテ造林事業ヲ經營セントス其計畫ノ概要ハ左ノ如シ

1、縣有林ノ總面積ハ千七百町步トシ植樹造林ヲ爲スモノトス但該區域中防火線溪流岩石地ノ爲メ除地ヲ要スルガ故ニ全ク植栽ヲ爲スベキ面積ハ千五百町步トス

2、造林スベキ箇所ハ左記河川ノ流域トス

- 野洲川 日野川
- 愛知川 犬上川
- 天野川 草野川
- 高時川 石田川
- 安曇川 芹川

3、造林ニ要スル土地ハ民有地ヲ借入レ地上權ヲ設定スルモノトス借地料ハ地上權設定ノ際一町步ニ對シ一時金五圓及主間伐ノ際其收入ノ百分ノ二十五以內ヲ土地所有者ニ交付スベキ豫定トス
 造林地ノ保護ハ土地所有者ニ委託シ保護料トシテ主間伐ノ際其收入ノ百分ノ二ヲ交付スルモノトス

- 4、縣有林ノ植栽ハ大正七年度ヨリ始メ毎年百五十町歩宛十ヶ年間ニ實行ス但大正五年度及同六年度ハ林地ノ借入、樹苗ノ養成、造林地ノ地拵其他ノ準備ヲ爲スモノトス
- 5、造林樹種ハ杉、扁柏ノ二種トシ其割合ハ杉三分扁柏七分トス
造林地一町歩ニ對スル植栽苗數ハ苗間距離五尺五寸ノ方形植栽トシ三千五百七十本トス
補植ハ植栽苗數ノ一割五分ヲ枯損ト見積リ新植ノ翌年施行スルモノトス
- 6、造林地ノ手入刈ハ植栽後六年間毎年一回施行スルモノトシ裾枝打ハ植栽後十年目ニ施行ス
- 7、縣有林ノ主間伐期ハ左ノ如シ
主伐期七十年

- 間伐期 第一回間伐十五年 第二回間伐二十二年
 - 第三回間伐三十年 第四回間伐四十年
 - 第五回間伐五十年 第六回間伐六十年
 - 8、一町歩ニ對シ經費ハ金百五拾九圓參拾壹錢貳厘ニシテ其細別ハ左ノ如シ
- | 費用區別 | 同上ノ細目 | 費金 |
|------|--------------------|--------|
| 樹苗費 | 苗木培養、山地運搬、苗木掘取等ノ費用 | 二六、二六九 |
| 植栽費 | 地拵、新植、補植等ノ費用 | 三六、五九四 |

手入費	下草刈拂、雪害防禦、裾枝打等ノ費用	五〇、八一
防火線費	防火線ノ新設及修繕費	七四、二
雜費	借地料、登記料、小屋費、測量費等	七〇、九三
管理費	吏員費	二七、八三三
計		一五九、三三

以上ノ計畫ニ基キ目下植栽ニ要スル樹苗ノ養成並林地ノ選定ニ着手セリ而シテ樹苗ノ養成ニ關シテハ苗圃ヲ在來ノ縣苗圃ニ増設シテ培養中ナリ苗圃面積數量左ノ如シ

事業別	樹種	施業面積數	量	備考
播種	扁柏	二、三二五	一三、〇〇〇	山行苗六十五萬本產出ノ見込
同	杉	一、四一〇	六、七〇〇	山行苗四十六萬九千本產出ノ見込
計		三、八〇五	一九、七〇〇	

七、公有林野ノ整理

本縣ニ於ケル公有林野ノ公簿總面積ハ五萬九千七百四十七町歩ニシテ其八割六分ハ部落有林野ニ屬シ公簿面積五萬一千七百七十三町歩ヲ占ム是等ノ林野ニハ古來入會關係等纏綿シテ因襲ノ久シキ尙粗放ナル取扱ヲ改メザルモノアリ之ガ整理開發ハ林野ノ利用上竝國土保安上極メテ緊要ノコトニ屬スルヲ以テ明治十九年民林取締規則ヲ制定シテ伐木採草及火入ヲ制限スル等專ラ林地ノ保護ニ勵メ後明治三十五年公

有林野整理規程ヲ發布シテ禿地一團地一町歩以上無立木地一團地五町歩以上ノ公有林野ニハ相當造林ノ計畫ヲ定メテ認可ヲ經ベキコトヲ命ジ之ガ指導監督ヲ加ヘ來リシガ明治四十年改正森林法ノ發布セラ
ルルヤ公有ニ屬スル原野山岳、荒蕪地等ニ對シテハ相當ノ管理區分ヲ行ヒテ夫々營林計畫又ハ管理方法ヲ定メシメタリ然レドモ根本的ニ之ヲ整理センニハ部落有林野ノ統一、入會關係地ノ整理並施業計畫案編成ハ最重要ナル事項ニ屬スルヲ以テ銳意之カ督勵ニ努メツ、アリ以下項ヲ分チテ其概況ヲ記述スベシ

(1) 部落有林野ノ統一

部落有林野ノ統一整理ニ關シテハ內務農商務兩次官通牒ノ趣旨ニ基キ絶ヘズ督勵ヲ加ヘツ、アリテ現在五萬一千余町歩ノ外現今迄ニ統一ヲ了シタルモノハ三十ヶ町村公簿面積三千七十九町歩餘ニ達シ是等ノ統一町村有林ニ對シテハ夫々施業計畫案ヲ編成シテ粗放ナル林野ノ利用ヲ改善シ町村基本財産ノ造成ヲ確實ナラシメタリト雖部落有財産ニ關スル積弊ハ容易ニ打破シ難ク現在公簿面積五萬一千餘町歩ノ部落有林野ノ内目下統一整理案ノ確定シタルモノ公簿面積一萬三千三百七十二町歩餘アルヲ以テ今後整理ヲ要スルモノハ三萬七千七百九十五町歩餘ニシテ目下專ラ督勵中ナリ其成績ハ左表ノ如シ

公有林野整理調查書 (大正五年三月末現在)

郡名	統一整理案確定面積		將來整理スベキ部落有林野現在面積	
	町村數	公簿面積	町村數	公簿面積
滋賀	五	七六,三六二	二	一一〇,〇〇〇
			七	三,三三三,一〇〇

郡名	統一整理案確定面積		將來整理スベキ部落有林野現在面積	
	町村數	公簿面積	町村數	公簿面積
栗	二	二四,三〇二	二	一,三六三,五〇〇
野	二	一七,二六八	二	二六九,〇〇〇
甲	一	二九,七〇九	二〇	六,二一四,〇〇〇
蒲	二	一六,一五六	六	五,一三〇,〇〇〇
神	一	三,九〇二	六	二,七六八,〇〇〇
愛	一	八〇,二二一	九	一,九〇一,〇〇〇
犬	三	三三,一九二	六	三,四一七,〇〇〇
坂	二	五九,七八一	二	三,六三九,一〇〇
東	二	五九,七八一	七	七,五九四,〇〇〇
伊	二	五九,七八一	八	三,〇八七,〇〇〇
香	二	五九,七八一	一〇	九,三四〇,〇〇〇
島	三	三〇,七九八	一〇	九,三四〇,〇〇〇
計	三〇	三〇,七九八	二一八	三,七七九,九〇〇

備考

一、本表部落有林野現在面積欄ニハ一町歩以上ノ部落有林野ヲ有スル町村ノミヲ掲記シ反以下ハ四拾五入セリ

(2) 入會關係ノ整理

縣下ニ於テ入會關係ノ存在セル林野面積ハ左表ノ如ク二萬四千五百八十一町歩余ニシテ其大部分ハ部落有又ハ共有林野ニ屬シ森林ノ利用ヲ妨ゲ諸種ノ弊害ヲ醸シツ、アリト雖右ノ内入會權ニ依ルモノハ僅ニ

四千余町歩ニ過ギズシテ其他ハ所有權又ハ共有權等ニ依ルモノナルヲ以テ是等ハ部落有林野ノ統一及林野ノ管理區分ト相俟チテ整理スヘキ見込ナリ然レドモ入會權ニ依ルモノハ其趣ヲ異ニシ統一上至大ノ障害ヲ與フルヲ以テ專ラ此種ノ林野ニ對シ整理ヲ急ギツ、アリ

入會關係面積表

(大正五年三月末現在)

郡名	所有權ニ依ルモノ	共有權ニ依ルモノ	入會權ニ依ルモノ	所有權及入會權ニ依ルモノ	共有權及入會權ニ依ルモノ	共有權及地上權ニ依ルモノ	計
滋賀	二九五四	二三五〇	一九九〇	三六一	四二		三、三九四
栗太	四二二三	二〇八〇					六、七〇五
野洲							
甲賀	四〇	四〇〇〇	一三五〇	五五五〇			一〇、八五〇
蒲生	一七九〇	一八三〇	六七〇				二、〇四〇
神崎	三三〇	三三〇〇	六三〇				六、六三〇
愛知	一九二三	三七〇八	一、一三〇		三三、四		二、一四七五
犬上			二六〇				二、六〇
阪田	一九八八	一、三一一〇	九〇		四〇六〇		三、六五四八
東井	三五〇	二七六六					四、七九六
伊香	九八七四	三九二			八〇		一〇、三四六
高島	一、六二九三	七四七八二		七五四			九、一八二九
計	九、九五五	一〇、五三二八	二、五二七〇	六、五六五	七四一五	一、六八〇	二四、五八三

(3) 公有林野ノ施業案編成

公有林野ニ施業計畫ヲ定ムルハ其經營ヲ合理適確ナラシムル上ニ於テ極メテ緊要ナルガ故ニ本縣ハ曩ニ述ベタルガ如ク明治三十五年縣令ヲ以テ公有林野整理規程(四十一年森林法施行規程ニ改ム)ヲ制定シテ縣下全般ノ公有林野ニ相當造林ノ計畫ヲ樹テシメ爾來之ガ實行ヲ督勵シ來リシガ大正三年八月ヨリ國庫ノ補助ヲ得テ吏員二名ヲ特置シ目下專ラ統一町村林ノ施業計畫案並入會整理案ノ編成ニ從事シツ、アリ現今迄ニ認可ヲ經タル所有別面積左ノ如シ

所有別	面積
郡有林	五八〇・八六一六
町村有林	六、九九一・五三〇六
町村組合林	三、八三二・二五一九
部落有林	一一、八八四・六八二四
計	二二、二八九・三四〇五

八、公有林野造林補助事業

本事業ハ明治四十三年度ノ創始ニシテ農商務省令第四號公有林野造林獎勵規則ニ依リ國庫補助ト縣費ト相俟ツテ市町村又ハ町村組合ノ經營ニ係ル造林事業ニ對シ補助金ヲ交付シ公有林野ノ整理ト市町村又ハ町村組合ノ基本財産林ノ造成ヲ容易ナラシムルノ目的ナリトス

本事業開始以來大正四年度迄ニ補助金ヲ交付セシ造林面積ハ總計二千四百十六町九反二畝二十四步地盤保護工事拾八町九畝五步防火線一萬五千四百三十三坪ニシテ各町村ニ於ケル部落有林野ノ統一整理ト相俟ツテ漸次造林面積ヲ増加シ年ト共ニ進歩シツ、アルノ狀況ナリ各年度ニ於ケル造林面積並造林ニ伴フ施設及補助金額ヲ舉グレバ左表ノ如シ

年度別公有林野造林補助成績表

年 度	造林面積	地盤保護 工事	防火線	計	補助費		計
					國費	縣費	
四十三年度	二六五・八一五	—	—	二六五・八一五	二六四・八五〇	一・〇〇〇・〇〇〇	三、六四八・八五〇
四十四年度	四一〇・二二三	五三〇・一九	一五五・〇	四一五・四三二	五、四八五・一五〇	二、八三六・〇〇〇	八、三二一・一五〇
大正元年度	三九二・六三六	六七三・六	八〇〇	三九九・三七二	五、四一〇・〇〇〇	二、八三六・〇〇〇	八、二四六・〇〇〇
大正二年度	四六〇・四四五	六〇五・〇	—	四二一・〇九五	五、四一〇・〇〇〇	二、八三六・〇〇〇	八、二四六・〇〇〇
大正三年度	四四〇・六一五	〇	九三・三	四四〇・〇六五	四、五九五・〇〇〇	二、四八六・〇〇〇	七、〇八一・〇〇〇
大正四年度	四八八・七〇〇	—	三七五・〇	四八八・七〇〇	四、八〇四・〇〇〇	二、八三六・〇〇〇	七、六四〇・〇〇〇
計	二、四六九・二三四	一、八〇九・九五	一五・四三三	二、四三五・〇二九	二八、三四九・〇〇〇	一四、八三〇・〇〇〇	四三、一七九・〇〇〇

九、社寺有林野ノ整理

本縣ノ社寺有林ハ其箇所數六千三百五十二總面積五千七百九十七町二反步ヲ有スレトモ從來一定ノ計畫ヲ立テ、施業スルモノ少シ故ニ漸次之ヲ整理スルノ必要ヲ認メ、一團地五町步以上ノ林地ニ對シテハ營林計劃ヲ確定セシムルノ方針ヲ以テ明治四十三年以降調査ヲ續行シ目下着々營林計劃ヲ作成セシメツ、アリ既ニ右計劃認可濟ノモノハ二十五箇所社寺其面積二千六百十六町三反九畝二十四步ニ達セリ

十、學校林ノ設置獎勵

愛林思想ヲ涵養スルト共ニ學校基本財産ノ増殖ヲ圖ルノ目的ヲ以テ縣下各學校ニ學校林ヲ設置セシムルコトハ從來獎勵セル所ナルガ就中小學校ノ設置ニ關シテハ明治二十七年以來特ニ之カ勸獎ニ島メ明治三十七八年戰役ニ際シテハ紀念事業トシテ小學校林ヲ經營セシモノ多ク大正四年度末現在ニ於テ縣下二百三十八ノ小學校中學校有スルモノ百校ノ多キニ達セリ其他甲乙種實業學校ニ於テモ演習林ヲ設置セルモノアリ是等學校林ノ箇所面積等ヲ表示スレバ左ノ如シ

學校林箇所面積表

學校別	官立		公立		私立		計
	學校數	箇所面積	學校數	箇所面積	學校數	箇所面積	
小 學 校	—	—	100	2,990	—	—	100 2,990
乙種實業學校	—	—	3	637	—	—	3 637

其他	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(備考) 實業學校ハ水口農林學校、山東農林學校、伊香農學校ノ三校ナリ

十一、林業ニ關スル各種組合ノ獎勵
 森林ノ施業保護其他林道ノ開設等ハ森林所有者ノ合同經營ヲ必要トスル場合多シ故ニ合同作業ノ必要ヲ認ムル箇所ニ就キテハ森林組合ノ設立ヲ獎勵シ既ニ設立ヲ許可シタルモノ左表ノ如シ

森林組合一覽表

名稱	事務所	目的	地區面積	事業項目	經費分擔方法	收益分配方法	設立許可組合員數	
木戸造林組合	滋賀郡木戸大字	森林ノ荒廢ヲ防止シ及荒廢セル森林ヲ恢復シ國土保安ニ適合スヘキ方法ニ依リ森林ヲ利用スルヲ以テ目的トス	一八三三二町	一、植栽 二、手入但シ植栽後六 年間は限ル 三、苗木購入又ハ障 物除却其他ノ植栽ニ 必要ナル準備行為 四、森林ノ荒廢ヲ防止 スヘキ必要工事	一、業務項目一乃至四 ノ各號ノ一ニ當リ ル費用ハ當該森林所 有者ヨリ徵收ス 二、前號以外ノ費用ハ 森林反別ニ比例シテ 之ヲ賦課シ組合員ヨ リ徵收ス	地區内ノ產物並收 益ハ其ノ存在スル 森林所有者ノ所得 トス	明治四十 四年八月 廿四日	一七人
小松造林組合	滋賀郡小松村大字	同右	二七九四八町	同右	同右	同右	大正二年 十二月十 一日	三五
青瀨施業組合	甲賀郡土山森林山ノ音	森林ノ荒廢及危害ヲ防止シ森林產物搬出ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス	五〇七〇〇町	一、造林 二、森林ノ保護 三、林道ノ修繕及新設	一、造林ニ關スル費用 ヲ當該森林所有者ヨ リ徵收ス 二、保護及林道ノ新設 修繕ニ關スル費用ハ 各組合員ノ組合ニ加 入スル森林面積ニ比 例シテ分擔ス	組合森林地ニ於テ 植栽又ハ生産シタ ル立木竹及生産物 ハ其存在スル森林 所有者ニ屬スルモ	大正二年 五月二日	一〇人

其他産業組合法等ニ依リ適當ノ組合ヲ組織セシメ以テ林產物ノ販賣製炭ノ改良等斯業ノ改良發達ヲ圖リツ、アリテ既設ノ組合數ハ十五ヲ算シ滋賀郡葛川村及伊香郡杉野村ノ産業組合同郡片岡村大字中河内木炭改良組合ノ如キハ其ノ成績最可良ナルモノナリ未ダ組合ヲ組織セサル町村ニ對シテハ時々勸奨ヲ加ヘツ、アリ

十二、竹林ノ改良増殖

竹材ノ需要ハ年ト共ニ増加シテ其價格著シク騰貴スルノミナラズ扇骨、簾、竹根鞭、其他ノ竹製品ハ縣下ニ於テモ年産額約拾壹萬圓ニ及ブヲ以テ竹林ノ經營ハ極メテ有望ナル事業ニ屬ス然ルニ縣下ノ竹林状態ヲ見ルニ總面積一千三百余町歩ヲ有スルニ係ラズ其年産額ハ僅ニ八萬五萬圓内外ニ過ギズシテ適當ナル保護撫育ヲ爲スモノ少ナク林相密ニ過ギテ生育不良トナリ若クハ病蟲害ニ罹リテ衰頹スルモ願ミス或ハ小利ニ迷ヒテ濫伐ヲ事トシ爲ニ需給相伴ハズシテ他府縣ヨリ移入ヲ仰グノ狀況ナリシヲ以テ適切ナル撫育ヲ施シテ林相ノ挽回ヲ圖リ一面ニハ竹林ノ増殖ヲ促進センガ爲メニ屢々通牒ヲ發シ或ハ實地指導ヲ行ヒ大正三年九月ニハ望月農商務技師ヲ聘シテ縣下各都市ニ講話會ヲ開催シテ大ニ一般ノ注意ヲ喚起シタル結果漸次好況ニ向ヒツ、アリ

十三、林業ニ關スル副業ノ獎勵

林地住民ノ副業ハ其種類多シト雖モ地方ノ事情ニ鑑ミ其撰擇ニ慎重ノ考慮ヲ要スベキヲ以テ常ニ各方面

ニ亘リテ調査ヲ怠ラザルモ就中木炭改良椎萱及山葵栽培ノ如キハ特ニ獎勵ヲ加フベキモノト認メ是等事業ノ實地指導並栽培試驗ヲ行ヒタルニ良好ノ成績ヲ收メタルヲ以テ爾來之カ獎勵ニ最メツ、アリ其概況次ノ如シ

(1) 木炭改良

木炭ハ山間部落ノ住民二千五百余戸ノ生業ニシテ林産物中重要ノ地位ヲ占ム木炭ノ種類ハ黒炭ニシテ唯僅ニ高島郡ノ一部ニ於テ白炭ヲ製スルモノアルニ過ギズ其製法ハ在來法(舊池田式)ニ依リテ地方向ノ粗製品ヲ濫造スル者多ク且俵裝並俵量ノ如キモ各地ノ慣習運搬ノ關係等ニ依リテ一定セス取引上不便尠少ナラザル等ノ缺點ヲ有セリ品質ノ改良俵裝及俵量ノ一定並販路ノ擴張ニ關シテハ可成産業組合法ニ依ル組合ヲ組織セシメテ其實行ヲ期スベク督勵セリト雖近時木炭ノ需要増加セルト漸次資材欠乏ノ傾アルコトハ益々製炭法改良ノ必要ヲ感ゼシムルヲ以テ大正二年愛知縣ヨリ教師ヲ聘シ八名黨式製炭改良法ノ第一回講習會ヲ伊香郡ニ於テ開キ翌三年第二回講習會ヲ犬上、甲賀、高島ノ各郡ニ於テ開催シテ修得者合計六十五名ヲ出シ是等ノ修得者ヲシテ更ニ自村ノ當業者ニ傳習セシメ其普及ヲ圖リツ、アリ

製炭副業トシテ醋酸石灰製造ハ國產獎勵上忽諸ニ附スベカラザル事業ナリ從來之ガ製造ヲ試ミタルモノアリシカ悉ク失敗ニ歸シ斯業甚ダ振ハザリシガ歐洲戰亂勃發シテ該製品ノ輸入杜絶スルヤ大正四年秋季ヨリ本年春季ニ至リ價格未曾有ノ暴騰ヲ示シタルヲ以テ他縣ヨリ當業者入込ミ縣下各地ニ於テ製造ニ從

事スルモノアルニ至リタリ一般製炭業者モ之ニ刺激セラレ自ラ製造法ヲ修得シテ事業ヲ開始スルアリ或ハ縣ノ實地指導ヲ請フモノアリテ一時非常ナル盛況ヲ呈シタリシカ本年五月ニ及ビテ價格暴落セシ爲メ一時事業ヲ休止スルモノヲ生ジタリト雖元來廢物利用ノ事業ナルヲ以テ縣ハ製炭業者ヲ指導シテ其健全ナル發達ヲ圖リツ、アリ

(2) 椎萱栽培

本事業ハ雜木ノ利用上林地住民ノ副業トシテ頗ル適切ナルニ係ラズ從來二、三ノ地方ニ於テ之レカ栽培ヲ試ミタルモノアリシニ止リ其發達遲々タリシヲ以テ明治四十三年秋季ヨリ伊香、高島ノ兩郡ニ於テ之ガ栽培試驗ヲ行ヒ何レモ豫期ノ成績ヲ收メタルヲ以テ更ニ大正二年秋季ヨリ種楮木ヲ交付シ縣下各地ニ於テ之カ栽培ヲ指導獎勵シ目下ノ栽培地ハ二十ヶ町村ニ亘リ手入保護其宜シキヲ得タルモノハ寢込楮木ニ對シ九割以上ノ椎萱發生又ハ發生ノ見込楮木ヲ得タリ是等ノ成績ニ徴シ益々獎勵ニ努メツ、アリ

(3) 山葵栽培

山間ノ遺利ヲ收メ國產ヲ増殖スル上ニ於テ本事業モ亦林地住民ノ副業ニ適ス本縣ニハ各地ニ天然生ヲ産シ其栽培地ニ乏シカラザルガ故ニ大正二年十月以來山間ノ村落數箇所ニ於テ栽培試驗ヲ行ヒシニ其發育狀態良好ナリシヲ以テ大正四年七月靜岡縣ヨリ教師ヲ聘シテ縣下各郡ヲ巡回講話セシメ滋賀郡葛川村外八箇所ニ於テ實地栽培ノ指導ヲ爲シタリ而シテ栽培ニ用ヒタル仔苗ハ多ク野生ノモノナルモ不足ノ分ハ

之ヲ静岡縣ヨリ購入シテ縣ヨリ交付セリ現今ノ成績ハ概シテ良好ナルヲ以テ將來益々發達スルニ至ルベシ

(4) 松根油製造

本縣下ニ於ケル松根ハ從來篝火、漁火、燃料等ニ用ヒラル、外多クハ腐朽ニ委セラレシガ近時之ヲ乾餾シテ松根油、木タール其他ノ工業原料ヲ製出スルモノアルニ至レリ現今本事業ヲ經營セル工場ハ左表ノ如シ

松根利用工場調

郡	村	大字	製品ノ種類	經營者
甲賀	水口	水口	木タール、木醋鐵液、木炭	倉田秀治郎
同	大原	神	松根油、木タール、木醋鐵液、木炭	村山儀三郎
阪田	同	池ノ下	松根油、木タール、木炭	大橋藤作 外一名
伊香	木ノ本	木ノ本	松根油、テレピン油、木タール、木炭、松煙	横田廣吉

十四、林業功勞者ノ表彰

林業ノ經營、公有林野ノ統一整理等ニ關シ自ラ實行ノ任ニ當リテ一般ノ模範トナリ或ハ他ヲ誘導シテ事業啓發上ノ功績顯著ナル等林業上特別ノ功勞アル團體又ハ個人ニ對シ林業獎勵規則ニ依リ明治四十五年二月第一回ノ表彰ヲ行ヒ夫々賞品ヲ授與シタリ其氏名ハ即左表ノ如シ

授賞品目	功績ノ概要	住所	氏名
銀盃壹組	部落有林野ヲ村ニ統一シテ村有林ヲ造成經營シ成績優良ナリ	甲賀郡	大原村
同	山檀ノ砂防植林ニ特効アルヲ發見セリ	滋賀郡	滋賀村
銀盃壹個	山檀苗木ノ栽培法ヲ研究完成シテ本縣ノ特産タラシメタリ	愛知郡	秦川村
同	卒先森林ノ經營ニ努メ成績良好ニシテ他ノ模範トナリ	甲賀郡	岩根村
同	地方林業ノ開發者トナル	同郡	油日村
同	組合林多年ノ紛争ヲ解決セシメ之ニ營林計劃ヲ立テシメテ其成績良好ナリ	蒲生郡	日野町
同	卒先森林ノ經營ニ努メ成績良好ニシテ他ノ模範トナリ	犬上郡	河瀬村
同	地方林業ノ開發者トナル		若林又右衛門

十五、林業講習講話

林業ノ講習ニ就キテハ町村ノ當業者又ハ其子弟ヲシテ林業上ノ智識技能ヲ習得セシムルノ目的ヲ以テ明治三十二年以來各郡農會ニ於テ毎年開催セル農事講習會ニ於テ林業ヲ講習セシメ大正四年度迄ニ講習セシメタル人員七千九百五十六名ニ上レリ尙右ノ外縣ノ經營トシテ明治四十三年同四十四年及大正四年ノ夏期縣下數郡ニ於テ短期講習會ヲ開キ簡易ナル測量法ヲ主トシテ林業ノ大意ヲ講習シ講習生總計千四百二名ニ達セリ

又明治四十五年三月大正二年七月及大正三年七月ニ於テ町村ノ林業技術員養成ノ目的ヲ以テ長期ノ林業講習會ヲ開催シ講習生百五十二名ニ及ベリ
 其他常ニ農閑ヲ利用シテ各地ヘ當廳技術員ヲ派遣シテ林業講話會ヲ開キ林業思想ノ普及ニ努メタリ

第二節 治水及國土保安ニ關スルモノ

一、保安林

明治三十一年一月森林法ノ始メテ實施セラレタル際ニ於ケル民有保安林ハ四萬四千九百四十二箇所臺帳面積三萬五千四百九十三町步ナリシガ同三十年十二月農商務省訓令第三十一號ニ依リ森林法發布以前ノ編入ニ係ル保安林ハ總テ實地調査ノ上之ヲ整理スルコト、ナリシヲ以テ特ニ調査員ヲ置キ明治卅三年度ヨリ調査ニ着手シ同四十三年度ニ於テ全部ノ調査ヲ終ヘ該調査ノ終ル毎ニ年々之ガ處分ヲ爲シテ大正元年度ニ至リ全部編入解除ノ處分ヲ了シタリ其結果保安林ハ箇所ニ於テ三萬三千四百五十六筆面積ニ於テ一萬五千九百九十六町四反步ヲ減少シ一先ヅ保安林ノ整理ヲ完了セリ爾後尙必要ニ應ジ編入解除ノ處分ヲ爲シテ異動ヲ生ジタリシガ現在ニ於ケル保安林ノ種類及箇所面積ハ左表ノ如シ

保安林箇所面積表

種別	國	有	公	有	社	寺	有	私	有	計
土砂打止林	二五九六町	一三九三町	三九五五町	五〇九九町	二二九五町					二二九五町

水源涵養林	九一	一三六	二〇五	四六八	五六二
類雪防止林	三四六	一一〇	一三三	三四六	三四六
墜石防止林		一一〇	一九		一一〇
魚附林	三三四	五八	二五九	一〇〇一	一〇〇一
風致林	二九七八	一四〇七	一〇八三	五五四五	三三六三
計					一〇〇一

保安林調査ノ結果ニ基キ保安林内ニ於ケル禿禿無立木地ニ對シテ明治四十二年以來森林法第二十七條ノ規定ニ依リテ造林ノ命令ヲ發シ所有者ヲシテ夫々造林ヲ爲サシメタリ同四十三年ヨリ大正四年迄ニ造林セシ箇所面積ハ左表ノ如シ

保安林内指定造林一覽表

郡名	山	松	扁柏	杉	山櫻松混	計
滋賀	一三	四八	一九	一	八二	二九
栗太	九三	二〇七	七六	四八	七六	一三六
野洲	四七	一	三	一	五	五
甲賀	七六	三〇七	二四	二七	七六	一三六
蒲生	六九	三六	一三	二	八	七〇
神崎	八五	二九	五	一	一	八五
計						七四

備考	一、面積一反歩以下ハ四捨五入セリ				
	高島	東井	阪田	犬上	愛知
計	二五八〇	五四三六	五五四	四六二	二二三
	二	〇	三	〇	一
	一	一	四	四	七
	八	四	九	八	四
	二	二	一	一	二
	一	〇	一	一	一
	一	一	三	一	一
	二五八	三六六	〇	四	九
	三六六	三	五	四	九
	六五〇	一九	〇	六	九六

二、森林開墾制限禁止

明治四十一年一月改正森林法實施ト同時ニ治水上並ニ國土保安上ノ必要ニ基キ森林開墾ノ禁止又ハ制限ヲナスベキ處少カラザリシモ應急ノ場合隣機ノ處置ヲ採リ先以テ村又ハ大字ノ區域ヲ以テ森林ノ開墾ヲ制限シタリ然レ共該制限ハ更ニ細密調査ヲ爲スノ必要アルヲ以テ明治四十四年五月農商務次官ノ依命通牒ニ基キ之ヲ整理處分スルノ計畫ヲ立テ同年八月ヨリ該調査ニ着手シ大正二年度迄ニ完結シ同年五月迄ニ之カ處分ヲ完了セリ

森林開墾制限地箇所面積表

各郡市ニ於ケル森林開墾制限地ノ箇所面積左表ノ如ク同禁止地ハ未ダ之ヲ設定セス

郡市名	町村數	大字數	森林		原野		計
			箇所	面積	箇所	面積	
大津	一	一	三六	一〇、〇〇〇	一	一〇〇	三六
滋賀	三	三	六二	一〇、〇〇〇	二七	一〇〇	九〇
栗太	三	三	五七	一〇、〇〇〇	四一	一〇〇	九八
甲賀	二	二	四三	一〇、〇〇〇	五六	一〇〇	九九
野洲	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
蒲生	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
神崎	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
愛知	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
犬上	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
阪田	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
東井	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
伊香	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
高島	二	二	四三	一〇、〇〇〇	三六	一〇〇	九七
計	一八三	一八三	一、五七六	一〇、一九〇六	九〇四〇	一、九二七	一、四八三

三、荒廢地復舊補助事業

本事業ハ砂防法ニ依ル事業ト相俟テテ治水ノ實ヲ舉グルノ目的ヲ以テ明治四十四年度創始セラレタルモノニシテ農商務省令第十六號荒廢地復舊費補助規則ニ依リ國庫補助金ニ縣費ヲ加ヘテ治水上重要ノ關係

アル保安林ニ於テ地盤保護工事若クハ地盤保護植樹ヲナシタルモノニ對シ補助金ヲ交付シ來リタルモ大正三年七月同規則改正ノ結果更ニ森林法第七條ニ依ル造林命令地ニ於ケル同一事業ニ對シテモ補助金ヲ交付シ得ルニ至リ其範圍ヲ擴張セリ

本事業開始以來大正四年度迄同事業ニ補助シタル成績ハ左表ノ如シ
 荒廢地復舊補助事業成績表

年次	面積		經費		補助金額	
	保護工事	保護植樹	保護工事	保護植樹	保護工事	保護植樹
明治四十四年度	一三、七三〇	二、三五八	一六〇、八〇〇	三、八四九	二、四三六	四、〇〇〇
明治四十五年度	一三、〇三三	一、〇六〇	一三〇、九四四	三、三三三	二、四九三	二、四九三
大正元年度	一六、四一九	五、〇〇〇	一六九、〇〇〇	四、一六四	二、四九三	二、四九三
同 二年度	二、七二九	—	二、七二九	六、三七一	—	—
同 三年度	二、三〇九	—	二、三〇九	六、一三六	—	—
同 四年度	二、三〇九	—	二、三〇九	六、一三六	—	—
合計	八七、七三〇	六、〇六八	九三、四三三	二七、八〇五	三、三三三	七、三三三

四、治水關係地標柱建設

本事業ハ明治四十四年四月農商務省訓令第七號標柱建設規程ニ依リ治水ニ關係アル保安林及開墾制限禁止地ニ對シテハ國費ヲ以テ標柱ヲ建設シ其箇所ガ保安林又ハ開墾制限禁止地ナルコトヲ實地ニ明瞭ナラシメ以テ保安林及森林開墾制限禁止地ノ取締ヲ周到ナラシメントスルモノナリ

治水ニ關係アル保安林ノ標柱建設ハ四十四年度着手大正元年度ニ全部建設ヲ了シ森林開墾制限地ハ大正二年度ヨリ着手同五年度ニ全部建設完了ノ見込ニテ既ニ大津市外十一郡ノ建設ヲ終ヘ高島ノ一郡ヲ殘スノミ其成績ハ左表ノ如シ

標柱建設成績表

年次	保安林		開墾制限地		計	
	建設本數	面積	建設本數	面積	建設本數	面積
明治四十四年度	三、八八	一〇、九六八	—	—	三、八八	一〇、九六八
明治四十五年度	四、九〇	八、八九〇	—	—	四、九〇	八、八九〇
大正元年度	—	—	—	—	—	—
同 二年度	—	—	—	—	—	—
同 三年度	—	—	—	—	—	—
同 四年度	—	—	—	—	—	—
合計	八、八八	一九、〇五八	—	—	八、八八	一九、〇五八

五、火入ノ取締

林野火入ノ害ハ森林經營上忍諾ニ附スベカラザルヲ以テ夙ニ其禁止ニ勗メタルモ採草ノ爲メ原野ニ火入ヲ爲スノ弊習ハ因襲ノ久シキ一朝ニシテ之ヲ矯正スルコト能ハザリシガ明治四十四年六月森林法第七十八條ノ改正ニ基キ縣令森林法施行規程ヲ改メ森林原野山岳又ハ荒蕪地ニ火入ヲ許可スベキ場合ヲ土地開墾造林地拵害蟲驅除ノ爲メ必要ナルトキニ限定シ爾來一層取締ヲ勵行シタルヲ以テ採草等ノ爲メ行ヒタ

ル火入ハ殆ンド其跡ヲ絶チ林野ノ利用開發上極メテ好況ヲ呈スルニ至レリ最近三ケ年ニ於テ火入ヲ許可シタル箇所面積ハ左表ノ如シ

火入許可箇所面積表

種別	大正二年			大正三年			大正四年		
	許可事由	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積			
公有	造林地拵	四〇	一六	一九	三	二九			
	開墾準備	一	〇	〇	〇	〇			
	害蟲驅除	一	〇	〇	〇	〇			
社寺有	造林地拵	一	〇	〇	〇	〇			
	開墾準備	〇	〇	〇	〇	〇			
	害蟲驅除	〇	〇	〇	〇	〇			
私有	造林地拵	六	二六	一〇六	一五	一九六			
	開墾準備	一五	九	〇三	五	〇三			
	害蟲驅除	一五	二二六	一四五	一五	二〇五			
計	害蟲驅除	一〇九	二四八	一四八	二六	二〇八			
	開墾準備	一五	二七九	九	五	〇三			
	造林地拵	一五	二二六	一四四	一五	二〇五			

第六章 郡市ノ施設經營

縣下各郡市ニ於ケル各種ノ林業施設中最顯著ナルハ郡市有林ノ經營林業技術員ノ特置樹苗又ハ造林獎勵金ノ交付及樹苗其他林産物ノ品評會造林地共進會ノ開設等ナリトス郡市有林ハ基本財産ノ利殖ヲ圖ルト共ニ一面部内ノ林業思想ヲ喚起シ且之ガ模範ヲ示サンガ爲メニ經營セラレ其狀況左表ノ如ク實測面積ニ千二百五十四町七反歩ニシテ大正四年春季迄ニ植栽シタル面積ハ千三百八十四町二反歩ニ達セリ

林業技術員ヲ特置シテ郡有林ノ經營ニ任セシムルト共ニ郡内ニ於ケル一般林業ノ指導獎勵ニ當ラシムルハ栗太、甲賀、愛知、犬上、阪田、伊香、高島ノ七郡ナリ又伊香高島ノ兩郡ニ於テハ從來苗圃ヲ經營シテ年々杉扁柏等ノ樹苗ノ無償又ハ有償交付ヲナシ高島郡ニ於テハ大正四年三月竹林獎勵規則ヲ發布シテ竹ノ造林者ニ獎勵金ヲ交付シ竹林ノ改良増殖ヲ圖リツ、アリ

郡市有林經營狀況調

郡市名	個所	種	造林計劃面積	既植面積
滋賀	三	杉、扁柏、櫟	四〇、〇〇〇	二二、〇〇〇
栗太	三	杉、扁柏、山楡	四九、六七七	四九、六七七
野洲	二	杉、扁柏	五三、四三五	三三、八〇〇
甲賀	八	杉、扁柏、松、山楡	六三、八五五	四九、八五五
蒲生	五	杉、扁柏、櫟	七四、一八三	七四、一八三
神崎	三	杉、扁柏、松、櫟	一〇二、〇〇〇	四七、〇〇〇

愛知 犬上 阪上 東上 伊上 高上 大上
計 淺 津 島 香 井 田 上 知

元	一	四	一	二	三	三	一
	杉、扁柏	杉、扁柏	杉、扁柏	杉、扁柏、山楡	杉、扁柏、落葉松、樺	杉、扁柏	杉、扁柏
	二五七〇〇	一〇〇〇〇	一九二六	九八二七	一八五〇八	八〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇
	二五七〇〇	一〇〇〇〇	一九二六	九八二七	一八五〇八	八〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇
	二五七〇〇	一〇〇〇〇	一九二六	九八二七	一八五〇八	八〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇

第六卷 滋賀縣 市、町、村、郡、縣、官、署、印、刷、所、用、紙、類、目、録

本縣各官署所用紙類、其種類甚多、茲將其種類、及紙類之名稱、及紙類之數量、列表如下、以供參考、

一、官署所用紙類、其種類甚多、茲將其種類、及紙類之名稱、及紙類之數量、列表如下、

二、官署所用紙類、其種類甚多、茲將其種類、及紙類之名稱、及紙類之數量、列表如下、

三、官署所用紙類、其種類甚多、茲將其種類、及紙類之名稱、及紙類之數量、列表如下、

大正五年八月十五日印刷
大正五年八月二十日發行

非賣品

滋賀縣內務部

印刷者 河田貞次郎

印刷所 西濃印刷株式會社

岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶
西濃印刷株式會社代表者
電話 四五番

326	326
183	183

終

